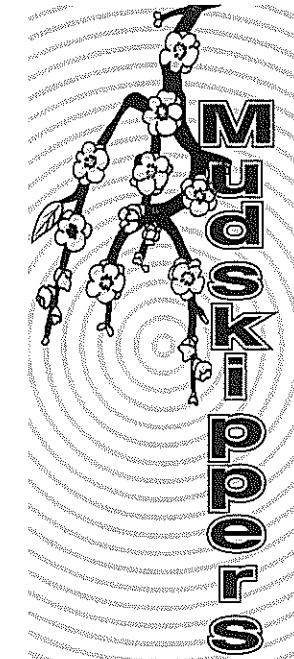


# 佐賀医はおれん家 おれん家こなじか？

2011  
大燈輝光



前夜祭 10/7(金)	
18:00	学年対抗クイズ
18:50	DANCE★SHOW
19:20	オープニングムービー
19:30	お笑いライブ Wエンジン フォーリンラブ BLUE RIVER
20:00	学年対抗芸だし
20:30	抽選会
21:00	

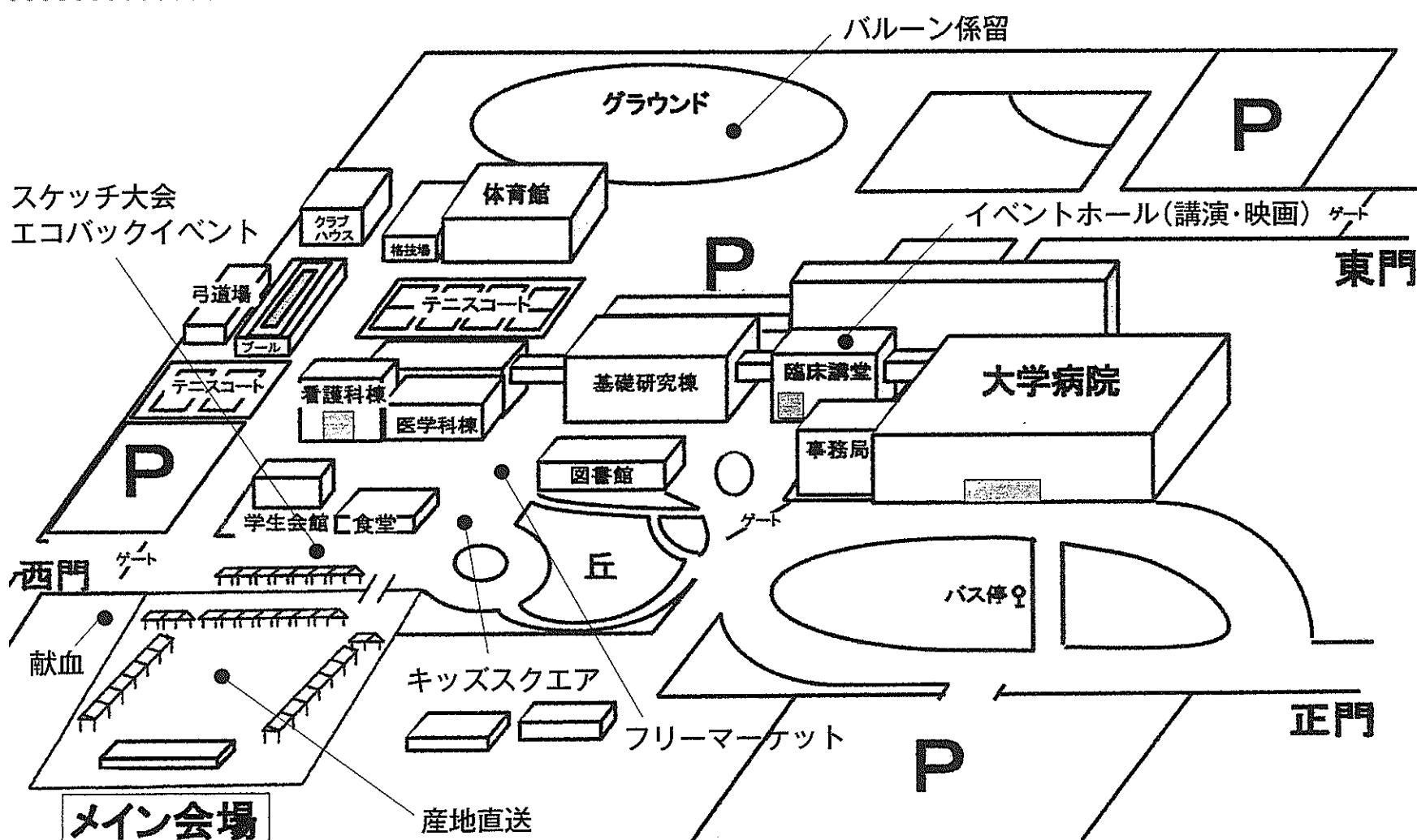
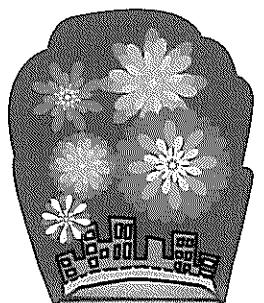
## メインステージ タイムテーブル

(メイン会場)  
\* 終了は各日21時  
\* 前夜祭のみ入場料500円

本祭日目		10/8(土)
9:00		開会式
9:30		現音ライブ
10:30		チームファイト
11:30		フルバトル
12:30		ヨーヨーパフォーマー Mr.タコス
13:00		マル秘!! SPECIAL LIVE
16:00		ピング大会
16:20		軽音ライブ
17:20		室内楽
17:50		ミスコン CANDYS(オープニング) ミスコン(1~3年生) CHEER READING ミスコン(4~6年生) お楽しみイベント 結果発表
20:30		現音ライブ
21:00		

本祭2日目 10/9(日)	
9:00	朝の10分間
9:10	軽音ライブ
10:10	新企画
11:10	❶企画
12:10	混声合唱
12:35	現音ライブ
13:30	SOUL'D OUT LIVE
15:30	○×クイズ
16:30	新企画
16:35	スケッチ大会表彰式
16:55	6年生ステージ
17:55	部活対抗芸だし ミス医大 (学内向けイベント)
20:30	花火・フィナーレ
21:00	

第33号  
2011年10月発行  
佐賀大学医学部  
〒849-8501  
佐賀市鍋島5丁目1番  
<http://www.saga-med.ac.jp>  
新聞編集委員会  
印刷／株式会社昭和堂



諸行無常といえは東北地方の大震災からはや6ヶ月以上が過ぎようとしている。家族、友人、家屋、仕事をなくした被災者はまさに諸行無常そのものであろう。この世に一人称の死はなく、それ故に自分の死は存在しない。物は造りうる可能性があるが、命の再生是不可能であり、それ故に家族、友人を失った被災者の傷は深い。傷は深いが、希望に向かって歩き続けることが唯一の救いであろう。再興を祈るのみである。物があふれた今の日本で、何もかも失うということはどういうことか、よくよく考えてみる好機かもしれない。

10月である。地球温暖化とはいえ朝夕は、めつきり秋らしくなつた。暑さ寒さも彼岸までとはよく言つたものである。日の出は遅く日の入りは早く、秋の日はつるべ落としに暮れる。夜長の秋である。芸術の秋である。秋は、紫外線、暑さ脱水など気にすることもなく、ウォーキングにはもつてこいの季節である。私のウォーキングコースは、田んぼばかりである。きみどり色の田んぼでは、稻の穂も実り、収穫間近である。「夷るほど頭を垂れる稻穂かな」の句が思い出される。田んぼのあぜ道沿いの水路には、よく見るようにいろいろな生き物がいる。命の発見には、歩く速度がちょうどよい。メダカ、ナマズ、ドジョウ、フナ、オタマジャクシ、カエル、アンボン、カメなどなど。先日は、ザリガニに出会わした。ちよつと驚かしてやろうと捕まえようとしたら、危うくは指をはさまれそうになつて、逆にこちらがびっくりした次第である。とにかく、ザリガニ君は機敏である。野生の俊敏さにあふれている数日後、同じ水路で、はさみのかけたザリガニに出会わした。瀕死のようで、ほとんど動かない、あの機敏さはない。ちよつと大袈裟かも知れないが、「諸行無常の鐘の音……」を思い出させる出来事であつた。



## ヨーヨーパフォーマー Mr. タコス

### Mr.タコス プロフィール

小学生の時に当時流行ったハイパヨーヨーに出会い、ヨーヨーチーム KYG に所属。個人・団体で九州チャンピオン、西日本チャンピオンなど数々の賞に輝く。

2003年にはヨーヨー世界大会への出場も果たす。

同時に16歳の時に出会った大道芸人ハリーの元で大道芸人修行を開始。数少ないヨーヨーをメインとしたパフォーマーとして各イベントステージで活躍中。

また現在はブーメランプレイヤーとしても活動。

2008年のワールドカップにて日本記録樹立。

2009年ジャパンカップ優勝。

2010年ワールドカップにて世界9位。

今後、あらゆる方面で活躍が期待される若手パフォーマー。



### 内 容

- ・ヨーヨー（2つのヨーヨーは必見！）
- ・マジック（爆笑の小ネタマジック）
- ・ダイススタッキング（筒の中でサイコロが積み重なります）
- ・ディアボロ（ユニークな中国ゴマ）
- ・バルーンアート（風船が動物に早変わり！）
- ・ファイヤートー（迫力のファイヤージャグリング）
- ・ローラーボーラー（はらはらの／ランス芸）
- これらを使って大人から子供まで楽しめる大道芸ショーをします。



## 学園祭プログラム

10月8日(土)・9日(日)

模擬店営業▶9:00~21:00

献血▶▶▶▶9:00~12:00

13:00~16:00

10月8日(土)

産地直送▶▶10:00~21:00

10月9日(日)

産地直送▶▶9:00~21:00

10月8日(土)・9日(日)

エコバックイベント▶10:00~17:00

キッズスクエア▶▶11:00~16:00

10月8日(土)

スケッチ大会▶▶▶▶10:00~16:00

10月8日(土)

バルーン繋留▶9:00~10:00

16:00~17:30

10月9日(日)

バルーン繋留▶9:00~10:00

### 臨床大講堂

10月8日(土)

講演

脳科学者 澤口俊之先生▶11:00~12:15

### 臨床小講堂

10月9日(日)

映画

トイ・ストーリー3▶14:30~16:30

### 図書館前

10月8日(土)・9日(日)

フリーマーケット▶10:00~17:30

## 講演会

「ホンマでっか!?TV」  
「ガリレオ脳研」等で有名な

### 脳科学者

## 澤口 俊之 先生

### 〈テーマ〉

「これからの社会を生き抜くために  
伸ばすべき脳力とは」

〈場所〉 佐賀大学医学部臨床大講堂

〈時間〉 10月8日(土) 11:00~12:15

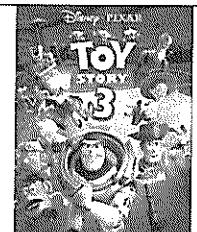
## 映画上映

### 〈場所〉

佐賀大学医学部  
臨床小講堂

### 〈時間〉

14:30~16:30



佐賀大学の入学案内にはハワイ大学の交流プログラムがあると明記されていますね？僕は受験生の時から語学の大切さなどを教わる機会があり、興味を持つていました。しかし自分も下級生のころは、実際は英語の勉強を続けるわけでもなく、自分には敷居が高いと思い、忘れていました。ところが3年生の時に縁あって、留学でやつてきていたハワイ大学の学生と交流しました。そこで今まで習ってきた英語が生きている言葉で自分の話す英語がわかつてもらえることに驚きました。そして一年後の渡米を決意しました。

毎年6月中旬頃、僕たち研修に参加するメンバーを中心に向こうから来る学生の受け入れのホストをしています。これはたつた2週間ですが、この時間は留学と同じくらい意味のある大切な時間であり、楽しい時間でした。今まで自分が暮らしてきた日本にこんなにも魅力があり、たくさんの外国人が生活しているということを初めて知ることができました。これは気軽に誰でも参加できるので是非今までより多くの医学生が参加してくれたらうれしく思います。同年代の外国人と話していると話題は尽きることなく、伝えられないものしさがより一層勉強を怠つてきた自分を反省させてくれました。留学生たちは満足して帰つてくれて、それだけでよ

# ハワイ研修に参加して

医学科4年 龍崎貴

+ 龍崎貴覧  
加して  
とつつきやすく、英会話の入り口となることに気づきました。うれしくなつてどんどん討論に参加しました。放課後はワークショップに参加したハワイアン、中国人、日本人でゲームをしたり、ピクニックをしたりして交流しました。自分の英語でも母国語でない言葉で国際交流できていることに感動しました。

徐々に今回のワークショップの到達目的やそのレベルがわかつてきて、肩の力を抜いて取り組むことができました。そしてじきに日本人の友達がたくさんでき楽しかったがなくなりました。

ハワイ大学での医学教育を体験でき、そしてそれを日本と比較して考察できたことで自分が日本でしていることの意味を認識することができ、優れている点、劣っている点もわかりました。そしてそれはその土地の風土、人間性、文化に基づいた教育システムだと思うので教育からもまたアメリカの国民性をつかむことができました。先生と生徒との友好的な関係性や、自己管理への信頼、手技のシミュレーション

これまでやや劣等生でしたがここにきて初めて他の人より得意なことが見つかり嬉しく思いました。中国人は会話、問診が得意、日本人はPBLで内科的に考えること、清潔管理が得意、アメリカ人は身体診察が得意、などは様々なプログラムがあつたため各国、個人により得意不得意があることも興味深く感じました。現地でできた友達は僕らを毎回ランチやディナーに連れて行ってくれました。アロリットを心から感じました。ワークショップの中もバーチャルクラブ、ケル、サーフィン、本當に楽しい思い出がたくさんできました。

最終日はお別れパーティがあり、卒業証書の授け渡しを受け取り先生や役員の皆さんと話ができました。そのあとは学生だけのホームパーティでした。今回のワークショップに参加する日本人には二種類の人間があり、将来海外で働いたいなどものすごい志高く真剣に来ている人と、働いて、将来海へ行つて学んでおきたかったり思ふ人がいました。

ここでも自分より英語ペ

ラ・ペラで楽しそうに話している人を見たらやはりうらやましく感じました。自分は無礼講の雰囲気に酔い、文化の違いから不必要に相手を傷つけてしまったり、喧嘩したり、仲直りしました。こんなことができるものは僕らが国境を越えた本当の友達であるからだと思いました。この夏最高の思い出となるパーティーでした。

世界のどこに行つても何をしていても、たくさんの方達とこんな風に飲み会ができるつていうのがいかに幸せなことがありました。そして今回出会えたみんな別れるのがこんなにも悲しくて名残惜しくなるなんて全く想像していませんでした。

中国人とも、ハワイアンとも、日本人とも、再会を約束して別れました。この友人達が今回つかんだ一番の財産です。

ワークシヨップの後時間を利用して僕はハワイ島(ビッグアイラン)へ三日間の一人旅にかけました。ずっと楽しみにしていた旅行でしたが、海外で一人だという事実を痛恨する出来事がたくさんあり、数時間もしたくありません。オアフ島の友人達がいかに現地の友人により支えられていたのかも痛感しました。しかし旅をつづけるうちに大自然や人の優しさに心癒されて行きました。何もない街のB&Bに宿泊し、小さな街のレンタルショッピングやコインランドリーでは、旅行とはまた違った形で外国を眺めることができました。この島で自分は恥ずかしさを捨ててどんどん見知らぬ

人に話しかけました。実際にたくさんのお会いがあり、観光地を教えてもらつたり、写真を撮つてもらつたりしました。

今回一番の思い出となつたのはマウナケア山登頂です。登山道はレンタカーでは到達できず、ヒッチハイクをする必要がありました。いろいろなグループに声をかけました。カップル、カメラマン、家族、観光ツアーバス、やはりどれもすぐにはうまくいかず空しい気分でした。しかし事情を説明したらみんなこんなずうずうしい自分に優しくて、何度もグッドラックと言われました。

そして結局最後のつもりで声をかけたりベラファミリーが僕を頂上まで連れていってくれました。そこで馬の骨とともにわからぬ僕に毛布を貸してくれ、パンツとジャケットを貸してくれて、食料も温かいココアももらいました。それ以外にもたくさんのものをもらつた氣がして僕は涙が出るくらいうれしくなりました。

その後に見た世界一きれいな星空は生涯忘れられない記憶になりました。この島を去る時にもこんなにも名残惜しい気持ちを持てるなんて想像できませんでした。

オアフ島での最後の一日はやはり佐賀でお世話をした友人達と過ごしました。さみしい気持ちを押し殺し、笑ってハグをしてさよならをしました。この日現地の友達とたくさん話をしましたが、ワークシヨップ、一人旅と乗組り越えて一回り大きくなつて自分史上最高に英語ができる自分がいて、

# 産婦人科サマースクールに 参加して

医学科5年 松尾 有菜 富井 曜加 良永弥生子

# 産婦人科サマースクールに参加して

内視鏡実習ではラバ口を使って、縫合を行いました。手元も見ながらだと簡単なですが、画面を見ながらだと距離感が分からなくなつて難しかったです。なかなかラバ口を使う機会はないので、このように長い時間で、実習で最も楽しかったのが一台一千万円もあるバーチャルリアリティトレーニングシステムです。これはモニターに卵巢や子宮の3Dのリアルな画像が出ていて、それをラバ口で掴んだり、電気メスで出血部位を止めたりと、鏡視下手術をゲームのような感覚で体験できるものです。電気メスを使うとき画面に煙も出でて、実際の手術をしているようで、とても樂しかつたです。

過密な実習スケジュールを終えた後は参加者全員で立食パーティーがありました。他大学の学生と触れ合う機会はなかなかないので、貴重な時間となりました。中には4年生で来ている学生もいたので、とても驚きました。夕食後はマウスの精子と卵を使って、顕微授精の実習を行いました。顕微授精がどのように行われているのかを実際に体験することで理解ができ、不妊治療に興味を持ちました。

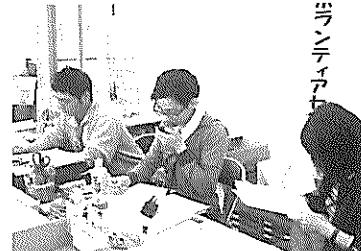
## 被災地支援の取り組み

# 「トランシーバーを被災地に 送ろう! プロジェクト」

医学科4年 森山直理

3月11日、と言えば、日本では今や東日本大震災を思い浮かべない人はほとんどいないでしよう。あの日、発生から瞬く間にメディアは震災関連の緊急ニュース一色になり、建物の倒壊、火事、そして津波と、これまで見たこともないような被害を次々と目にすることになります。幸い関東や東北に住む知人とは皆すぐ連絡が取れ安全が確認されたものの、私は落着かず部屋の中を意味もなくうろうろしながらどうしたらいいんだろう私に何か出来ることはなないのか、とずっと考えていました。

そんな中、Twitterにて「医系学生で被災者支援をしよう」と呼びかける書き込みを偶然見付け、「私に出来ることがあれば」と連絡を取りました。発起人は2005年の福岡県西方沖地震を経験したことのある東京の医学生で、「SMARTプロジェクト」という団体で活動を始めました。しかし、医系学生が集まることで出来ると言つても、当時急性期（亜急性期に



免許を必要とする無  
誠の送付は既に日本ア  
、ニア無線連盟（JA  
）という団体等が  
ていてましたが、免許  
が取れたない900ヶ所も  
難所の運営者や医療  
施設、消防署等が使  
てきましたが、免許  
の発行が遅延する事  
で、私達は誰でも使  
うかと考えました。  
そのためには通信に理解のあ  
るバーの方が有用では  
ないかと考えました。  
免許不要のトラン  
シーバーの方が中心に自作のホー  
ムページのコピーを持つ  
直接支援のお願いに  
たり、インターネット  
呼びかけを行つたり  
たり、十分な資金を集める  
ために、なかなか理解さ  
れないので、十分な資金を集める  
に苦慮しました。ま  
た、トランシーバーで  
は通信距離が短く  
オペレーシヨンや  
バッテリーの確保  
等問題が多く被災  
地支援には使えな  
い」という指摘か  
ら、「子供の電話  
ごっこで使って

貴つた方がまし」横流<sup>ヨコリュウ</sup>するんじゃないいか」「『震災復興』という大義名分をかぶせただけの我慢<sup>我慢</sup>などと心ない批判を受けたりもしました。

「携帯電話での連絡が思うように取れず車両間の連絡や活動場所での連絡が滞っていたのが、今回の活動からはこのトランシーバーが活躍した。」  
カーナビ通りに道が残つていないので、こまごまとしたやりとりは電波が

創刊號 第 2011 年 7 月 29 日 編號 29-1-1 在韓全

**効率よく**（著者）は、日本で最も注目される効率化の書である。著者は、効率化の実践者として、多くの企業で経験を積み、また、多くの著書を通じて、効率化の理論と実践を広めている。本書では、効率化の基礎知識から、実践的アドバイスまで、幅広く解説している。特に、効率化の実践法として、「目標設定」「資源管理」「組織構造改革」「人材育成」「情報システム化」などの具体的な手順が示されている。また、効率化のための組織文化や、効率化による社会貢献など、社会的視点も考慮されている。

た活動を、被災地と隔てた場所から、たつた2人、それも東京・佐賀と遠く離れたパートナー間で、Twitterやサイボウズ、Dropbox、Skype等のインターネットツールを活用して密に連絡を取りながら行つきました。マンパワーも乏しく後ろ盾もない、経験も資金もない学生の小さな活動ではありませんでしたが、少しずつ努力が実り、お陰様で皆様に多くの支援を賜り、これまでに消防団や県災害ボランティアセンター、NPO法人等に対して計50台のトランシーバーを

ズを広げていく、と言つた活動を、被災地と隔てた場所から、たつた2人、それも東京・佐賀と遠く離れたパートナー間で、Twitterやサイボウズ、Dropbox、Skype等のインターネットツールを活用して密に連絡を取りながら行つきました。マンパワーも乏しく後ろ盾もない、経験も資金もない学生の小さな活動ではありませんでしたが、少しずつ努力が実り、お陰様で皆様に多くの支援を賜り、これまでに消防団や県災害ボランティアセンター、NPO法人等に対して計50台のトランシーバーを

情報が円滑に進むことは不可欠。非常に助かっている」等、トランシーバーが被災地において有用であつたとの評価を頂くことが出来ました。何より複数のトランシーバーで情報を一斉送信・同時受信出来る点がスタッフ全員での情報共有を可能とし、単に「有線電話・携帯電話に替わる通信手段」ではなく、「トランシーバーだからこそ出来る通信支援」を提供することが出来たと自負しています。

また、プロジェクトの傍ら東京のパートナーはPCAAT（日本プライマ

貴つた方がまし』横流しするんじゃないか』『震災復興』という大義名分をかぶせただけの我慢などと心ない批判を受けたりもしました。それでも、被災地でニーズがあることを確認していたので、支援のお願いに奔走する傍ら被災地のニーズ調査を行い、提供要請があれば必要量のトランシーバーを集め、十分量の電池と自作のマニュアルを同封して郵送する、また提供後もフォローアップを行い、フィードバックを受け、問題点があれば解決策を考え、そこから更に二一提供することが出来ました。さらに、提供先より携帯電話での連絡が思っていたのが、今回が滞っていたのが、この活動からはこのトランシーバーが活躍した。カーナビ通りに道が残っていないので、こまごまとしたやりとりは電波がありづらい携帯電話よりもトランシーバーが重宝した『災害ボランティアセンター』内での連絡調整センター内の連絡に使用している。日に200人、多い土日には700人を超えるセンターであり、連

A black and white photograph of a group of approximately 15 people posing for a group photo. They are arranged in three rows, with some individuals standing on chairs or boxes to reach a higher vantage point. The background features a dense urban skyline with numerous lit-up skyscrapers under a dark sky.



医学科3年 平岡 知浩

外の医療をその国の人々が  
ら聞くことが出来て、現  
実味がありました。日本の医療制度問題ばかりか  
りが挙げられていますが、  
高い水準の医療を低価格化  
でしかも国民全員が受は  
られる制度の凄さを再発  
認させられました。

さらに「リーダーシッ  
プとは何か」、「自國の医  
療問題」「医療教育をどう  
していくべきか」など  
身近なことを題材にして

ケーションをはかれる良い機会となりました。また、国際連合から世界の貧困と医療に携わっているDr. Calvaniさんが講演されました。PBLのようにストーリー性を持たせ、医師側からの考え方、現地に住んでいた人の考え方を参加者に質問しながら進行して行われました。自分の国の医療制度を例に挙げながら、問題に対する解決策を発表していたため、日本以降、佐賀大学からAMSJA Japan代表二人目が誕生し、佐賀大学は全国の学生から国際医療に熱い

A black and white photograph showing two people in a room. One person is standing and holding a small object, while the other is seated and looking at it. There is a window in the background.

第69回 五國志願科學生終全体審主會成績

バスケットボール	女子	3位
ヨット	470級	3位
バレーボール	男子	準優勝
剣道	女子(医、団体)	優勝
	女子(看、団体)	準優勝
ボート	中村大地(医5)	優勝
水泳	松田知也(医3)	50m自由形 優勝
	松田知也(医3)	500m自由形 準優勝
バドミントン	ダブルス 東 寛華(看3)	
	東田郁恵(看3)	優勝
	男女子混合	3位
陸上競技	松岡優毅(医3)	走り幅跳び 優勝
	松留優勢(医3)	三段跳び 準優勝

**新聞編集委員**

戸田修二教授（編集長）  
河野 史教授、尾崎岩太准教授、  
藤井 可講師  
徳田悠希子（医6）、野上 愛、吉  
田紀子（医5）、森下さくら、草場  
香那、牟田口真理（医4）、壹岐聰  
一朗、合田夏希、鈴木源晟、橋本  
健太（医3）、尼寺那佳子、沖藤悠  
貴、中道あづさ、藤井玲衣奈（看  
3）、竹藤徳子、溝内 紗子（看2）  
要望などの連絡先  
学生サービス課総務主担当 島田  
[eshimada@cc.saga-u.ac.jp](mailto:eshimada@cc.saga-u.ac.jp)